

東久留米市立西中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に活用した学習内容を生かすことのできる具体的な場面が想定することが難しい。 自分の考えを書いて表現する際、考えがあるにも関わらず表現の方法でつまずき、書き始められない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の過程を明確にし、同じ考え方でできる場면을複数想定させる。 メモ欄を活用し、考えを単語や箇条書きで表現したり図で構造化したりする等の工夫をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容に応じて単元の振り返りカードを活用した振り返りを行い、7割以上の生徒が具体的な場면을想定できるようにする。 ●メモ欄の活用例を全体で共有する。授業内で考えを書く際の未記入もしくは単語での記入の割合を1割以下にする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果を見ると、基本的な知識が身に付いていない生徒が一定数いる。 発言する生徒はごく一部に限られている。 思考力・判断力・表現力が身に付いていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の開始に復習問題を行い、基本的な知識の定着の確認を行う。 5W1Hを含む、事象の背景や理由にまで考えが及ぶように、説明・発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○復習問題やワークの問題を繰り返し活用し、知識理解の達成率7割を目指す。 ●毎時間の到達目標に照らし合わせ、本時の内容を文章でまとめる取組を毎時間行う。要点を押さえた文章表現の小テストの実施する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 分数の計算に対する苦手意識が強い。 問題集や週末プリントなどの提出率はよくなってきたが、内容が雑な生徒が多く、定期考査などでも計算のミスが目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算方法を再確認し、間違いやすいポイントについては丁寧に板書し、説明する。その上で、分数の計算も整数の計算と同じようにできることを理解させる。 計算の過程をきちんと書かせて、間違えた問題については、消さずに、自ら原因を追究して、横にやり直すように徹底する。また、見本となるような生徒の取組を紹介し、参考にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○単元ごとの授業内小テストを実施する。 ○週末プリント ○単元ごとに、問題集の取り組み内容を確認する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 記述や口述のとき、用語を正しく使えず、論理が食い違ってしまう場合が多く見られる。 論述の言葉の練度を高める指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 平易な表現と教科書の文章程度の表現の互換を意識させる。 表現力を増やすために、多くの生徒に発言を求め、様々な表現を提示する。 授業での発問に対する答えを、用語を用いて頭の中で構成させ、実際に記述する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎定期考査、実験レポートから確認する。 ○思考の平均得点を5分上げる。 ○用語を用いて復習ノートに記述できる生徒を7割以上にする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽用語（主にイタリア語）とその意味（日本語）が合致していない生徒がいる。 知覚した音や感受したイメージを、的確な言葉で表すことが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽用語を多く使用した授業を進める。音楽用語を板書する際はチョークの色を変える。 語彙力を増やすために、何人もの生徒に発言を求めて様々な表現を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽用語を用いて発言・ワークシートに記入できる生徒を7割以上にする。 ◎語彙力を増やすためにワークシートに「なるほどスペース」を設けて積極的にメモができる生徒を6割以上にする。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を把握できず、授業内で達成すべき内容が身に付いていない生徒がいる。 ・題材にそって考えを広げることが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を授業内で何度も確認し、何を身に付ける活動なのかを意識させる。 ・発想を広げる活動では、他の生徒とも意見を交流しながら考えを広げられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●8割以上の生徒が、目標を意識して授業の振り返りができるようにする。 ○自分の考えを一言でも書けるようにする。(ワークシート)
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得に課題があるため、知識を運動技能の向上や運動の工夫に生かすにくい実態がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの文字や図による説明、口頭による説明、動画を活用した説明など、ガイダンスを充実させ、技能の習得や運動の工夫に活用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能の習熟度を観察によって評価するとともに、考査・学習カードへの記入をもとに成果を検証する。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の作業進度に差がある。各生徒の状況を把握し、差がでないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各製作工程において作業内容や注意点を視覚的に理解できるように、ICT機器を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進行度合いを観察するとともに、振り返りシートで生徒の実態を適宜確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器への関心が高いが、情報モラル、情報を正しく扱う方法について理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活において情報に関する事件・事故の実例を積極的に取り上げ、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期の考査で確認する。3問以上の出題し、8割以上の生徒が全問正解できるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲に個人差がある。社会生活に必要な知識と技術を身に付けさせたい。消費生活・衣生活などにおいて社会生活面に触れ、良き社会人となるべく知識と実践力を付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の衣文化(和服)や食事(和食)のよさに気付かせる取組をする。食事作りを家庭で実践できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎浴衣のたたみ方や和食の調理について学習・実習する。(家庭での調理課題とする可能性あり。) 家庭での食事作り実践記録を作成させる。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・既習文法事項と既習語彙の未定着により、英文の正しい理解ができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面と合わせた文法理解の定着、語彙の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙定着のための小テストを單元ごとに行う(8割以上得点できる生徒を7割以上にする)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での表現(話すこと・書くこと)を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動・まとめの活動を活用し、表現の機会を設ける。相槌や質問、会話時間の長さなど、段階的に難易度をあげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期と3学期に1度ずつInterviewテストを行う(8割以上得点できる生徒を7割以上にする)。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見をもち、述べることができる。話し合い活動では他の意見を傾聴し、見方・考え方を広げようとする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目にそって、更に多面的・多角的な見方考え方を深められるよう、授業内の発問を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートをファイルにストックし、生徒自身が自らの成長を把握できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・より多面的・多角的な見方・考え方ができる生徒を増やすために、様々な意見を取り上げる学習指導案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の活用に関して、より考え方が深まるように工夫すると同時に、資料を短縮したり登場人物の位置関係を分かりやすいイラストで説明したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期末にワークシートを引用しながら個人内評価を行うとともに、成長が見られた点を励まし、更なる成長につなげる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・職業・勤労の学習の中で知識として様々な職業を関連付けることはできるが、興味・関心のある職業を問われると解答できない生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業を関連付けていく中で、生徒自身がどのように考えて職業同士を関連付けているのかを具体化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを活用して生徒自身の考えた過程を確認し、興味・関心のある職業を明確に挙げることでできる生徒を7割以上にする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習において、指示された調べ方で取り組むことはできるが、自主的に探したり、工夫するところまでは至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の予定や調べ方を意識させるため、計画や調べ方をワークシートや掲示物で示し、丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の最後に学んだことをまとめさせ、調べ学習の方法や発表の良かった点、改善すべき点を確認する。